

平成29年度 重症心身障害児(者)医療に関する研修

国立病院機構では、みなさまのスキルアップを応援する各種研修を提供しています。今回は患者の年齢が幼児から高齢者まで幅広く、多くの診療科が関わる「重症心身障害児(者)医療」に関する研修をご紹介します。

重症心身障害児(者)医療に関する研修 ～重心医療の現場・実践編～

下志津病院 副院長 山本 重則

平成29年11月16日～17日、下志津病院にて「重症心身障害児(者)医療に関する研修～重心医療の現場・実践編～」が開催されました。今回は座学中心ではなく、できるだけ実践的なプログラムになるよう企画しました。募集期間が比較的短かったためか、定員20名のうち参加者は12名でしたが、そのぶん濃密な研修ができたと思います。

■ 研修第1日目

1日目には、高知病院小児科医長の武市知己先生を講師に迎えて、実践的な研修の最大の目玉として「気道軟性内視鏡の実習」を企画しました。午前と午後、各6名に分けて、ハンズオンセミナーを実施しました。最初に、講義とモデル人形を用いた実習で基本操作を学んでもらい、内視鏡に慣れたところで講師およびアシスタントを被験者として上気道内視鏡検査を体験してもらいました。人形相手から人相手の検査を体験することで、参加者のやる気と自信が高まったようです。病棟実習では患者さんから学びながら前に進んでいく流れを示して、計3時間45分のハンズオンセミナーを終りました。

武市先生は「内視鏡検査を身近に感じる実習にすることができたと思うので、安全に簡単に検査できる患者さんからぜひ実践して欲しいです」とコメントされています。受講生の感想では「非常に丁寧に分かりやすかった。気管支鏡に実際に触れることができ、とても有意義だった」「気管支鏡に触れる時間がたくさんあって良かった。少しずつ挑戦していきたい」など、今回の研修が各病院の診療レベルの向上に結びつくことが期待されました。

内視鏡の実習と並行して、「呼吸管理と肺理学

療法」に関する研修を企画しました。当院の土屋臨床工学技士による、カフアシストE70、IPV、Smart Vest、RTXを体験する肺理学療法法のハンズオン研修では、受講生が各メーカーへ熱心に質問するなど、関心が高かったです。当院の荻原理学療法士長による研修では、徒手呼吸療法や腹臥位による体位ドレナージュやリラクゼーションなどの現場を見学。肺理学療法法の重要性を理解してもらえたかと思えます。

夕方には今回の研修のハイライトとして、島田療育センターはちおうじ所長の小沢浩先生に「療育という名のものがたり」の講演をお願いしました。受講生からは「医療・教育・福祉のつながりの大切さを実感した」「小沢先生の講演は以前にも聴いたが、今回あらためて拝聴して、大変感銘を受けた」などの感想が寄せられ、障害児者と共に生きることを見つめなおすことができたのかなと思っています。

■ 研修第2日目

午前中は、栃木医療センター歯科口腔外科・岩淵博史先生の口腔ケアの研修と、千葉東病院歯科医長・大塚義顕先生の摂食・嚥下の研修を企画しました。相互実習による口腔ケアの体験学習により、口腔清掃不良患者や口腔ケアが行われている患者側の気持ちの疑似体験ができ、口腔ケアの難しさと意義・重要性を理解していただけたかと思えます。「摂食・嚥下」の研修では、「経口摂取再開の基準」の診断・評価法の講義や、2人1組となつての頸部聴診法の実習などを通して、「摂食・嚥下」に関する理解が深まったかを感じています。

午前中の最後には、当院小児科病棟の看護師



機械を用いた肺理学療法セミナー



気管支内視鏡の受講者の体験の様子

とMSWからポストNICU・ポストPICUの重症心身障害児の在宅移行支援の症例提示をしました。在宅移行の大変さと重要性を実感してもらえたかと思えます。

午後は、当院感染症内科医長の鈴木由美先生を講師に、重症心身障害病棟における院内感染防止対策について、講義・グループワーク・病棟巡視を中心とした研修を企画しました。グループワークでは活発な意見や質問が交わされました。病棟巡視では、普段の病棟医の目線とは異なる、院内感染担当者の視点で見ってもらうことで、自施設での感染対策に関する新たな課題を見つけてもらったのではないのでしょうか。

研修最後のプログラムは、当院小児科の眞山義民先生による「重症心身障害児者のケーススタディ」として、閉塞性呼吸障害・イレウス対応に苦慮している男児1例についての症例提示と考察を



気管支内視鏡のハンズオンセミナーでの講師の武市先生のデモ

平成29年度 重症心身障害児(者)医療に関する研修 「重心医療の現場・実践編」

対象：現在、重症心身障害児(者)医療に携わる
医師および関心のある医師

日時：平成29年11月16日～17日

会場：国立病院機構下志津病院

参加者：12名

■ 研修内容

1日目

- ・実習：気管支鏡のハンズオンセミナー
- ・講義と実習：呼吸管理と肺理学療法
- ・講演：療育という名のものがたり

2日目

- ・講義と実習：口腔ケア／摂食嚥下
- ・ケーススタディ：ポストNICU・PICUの在宅移行支援
- ・重症心身障害病棟における感染対策
- ・ケーススタディ：各疾患の診断と治療

お願いしました。診断や治療に苦慮する症例を抱えている受講生も多く、活発な質疑応答が交わされました。対応に苦慮した症例を持ち寄り、ディスカッションできる定期的な場があれば、各自の今後の診療に役立つのではないかと考えられました。

■ まとめ

全体を通して、受講生から「講義だけでなく参加型のGWやディスカッション、演習など、内容が充実しており、大変勉強になった」「病棟での気管支鏡ハンズオンや口腔ケアやIPV機械デモなど、体験型の実習がとて良かった」「実習・実技が

多く、どの講義も実践的で、臨床にすぐに役立つ知識・技術を得られたように思う」などの感想が寄せられ、有意義で実践的な研修会が実施できたと思います。今回の研修会に協力していただいた講師の先生方と下志津病院のスタッフのみなさんに御礼を申し上げます。

重症心身障害児(者)医療に関する研修 ～重心医療について知ってみよう～

西別府病院 院長 後藤 一也

今回の研修企画では、若手医師にいかん重症心身障害児医療に関心を持ってもらうかという観点から、①この分野の経験者による総論的解説の講演、②九州グループ内機構病院の診療内容紹介、③当院スタッフの業務内容紹介、④在宅医療の解説を研修に盛り込むことにしました。平成29年12月7日～8日に、受講者18名(国立病院機構15名(うち研修医8名、専修医2名)、労災病院3名(いずれも研修医))を迎えて西別府病院で開催しました。

■ 研修第1日目

研修は当院スタッフによる重症心身障害児者(以下重症児者)の基礎疾患、療育福祉支援、看護についての講義ではじまりました。次に、福岡東医療センターの水野勇司先生が呼吸障害や誤嚥への対応を中心に話されました。先生は重症児者の呼吸器、消化器疾患の評価に内視鏡を早く導入されましたが、その実績とともに誌上で発表されてきた姿勢は、受講者の皆さんにも刺激になったと思います。

午後から当院の重症心身障害児病棟を見学してもらい、担当医・病棟師長から説明がありました。次に、福岡病院の本荘哲先生が、大腸がんや乳がんの検診や治療を紹介しながら、重症児者の倫理的問題、特に公平さ、平等について示唆に富む解説をされました。

その後、摂食嚥下障害や口腔ケアについて、鹿児島大学佐藤秀夫先生と当院の歯科衛生士からの講演を通じて、これらのケアの重要性とともに医科歯科連携の一端が紹介できたと思います。当院が担当した症例提示については、摂食嚥下障害を持つ重症児の摂食場面を紹介しながら、胃ろう造設を含めた治療方針についての検討を通して、発達期にある重症児への包括的ケアを理解していただきたいという思いで企画しました。

次いで中津市民病院の是松聖悟先生には、大分県における小児在宅医療の取り組みの紹介、

在宅医療の重要性、重症心身障害児医療の知識や技術の小児医療や在宅医療への活用について伝えていただきました。

びわこ学園医療福祉センター草津の口分田政夫先生の講演では、栄養管理を中心とした診療の紹介とともに、生命倫理、人格に関する問題を取り上げられました。国立病院機構施設の一員として公法入立施設から学ばせてもらうことは多いと実感しました。

同日夜の意見交換会は、受講者、参加者の交流の場になったことに加え、会の途中で行われた受講者の自己紹介で、多くの方々が小児科を希望し、今後の重症児者との関わりも口にし、研修会に携わった出席者にとって、このうえない朗報となりました。

■ 研修第2日目

2日目は高知病院・武市知己先生の「呼吸障害のみかたと対応法」からはじまり、先生の長年の経験に基づき、重症児者の呼吸障害の基本、評価、治療法などを解説されました。

また、長崎病院の羽島厚裕理学療法士長から、多岐に渡るリハビリ支援が紹介されましたが、当院の臨床工学士、阿部聖司主任の話とあわせて、多職種協働でケアすることの意義も理解されたと思います。次に熊本再春荘病院の島津智之先生からは、在宅支援の取り組みとともに、先生自らが立ち上げられたNPO法人の活動が紹介され、受講者に大きな刺激となった講演でした。

南九州病院の佐野のぞみ先生は重症児者の主病態である脳性麻痺についての概説とともに、長年取り組まれているボツリヌス治療を紹介されました。診療内容に加え、先生のご活躍ぶりは受講者、特に女性医師の参考になったと思います。

重症心身障害児医療の進歩の大きな柱である外科治療について、あまぎユイの里医療センター・寺倉宏嗣先生の講演では、腹腔鏡手術を中心に重

症児者に関わる手術の導入・普及に努められた経験と、手術による効果、QOL改善を語っていただきました。研修を締めくくる東京都病院・宮野前健先生の講演では、NHOの重症心身障害児医療の変遷、取り組みなどを紹介されるとともに、在宅医療への取り組みなどを解説され、重症心身障害児医療の今後の方向性を示していただきました。

■ まとめ

2日間の研修を通して、受講者の皆さんには重症心身障害児医療の概要把握とともに、その面白さに気づいてもらったのではないかと考えております。

ただ、受講者から内容の統一性などで難点を指摘され、企画や事前準備などの課題が挙げられました。今回の研修を担当し、重症心身障害児医療に興味を持ってもらう貴重な機会であることを実感しましたので、本研修の継続と充実を願うばかりです。

最後になりましたが、研修会開催にあたりご支援いただいた講師の先生方、開催全般の準備、運営に携わってくださった皆さまに厚く御礼申し上げます。



病棟見学の様子

平成29年度 重症心身障害児(者)医療に関する研修 「重心医療について知ってみよう」

対象：卒後7年目程度の若手医師、総合診療能力を高めたいと考えていて、比較的身障害児(者)医療の経験が浅い医師

日時：平成29年12月7日～8日

会場：国立病院機構西別府病院

参加者：18名

■ 研修内容

1日目

- ・重症心身障害児の基礎疾患
- ・重症児者にかかわる福祉サービス
- ・看護師の視点から
- ・重症心身障害児医療の紹介
- ・病棟見学
- ・重症心身障害児者医療における公正さを考える
- ・摂食嚥下障害への歯科的アプローチ
- ・西別府病院症例提示
- ・日本小児科学会と大分県における小児在宅医療支援
- ・重症心身障害児医療の変遷とこれから

2日目

- ・呼吸障害のみかたと対応法
- ・重症心身障害児者のリハビリテーション
- ・呼吸管理の進歩
- ・重症心身障害児医療の紹介「地域で支える小児在宅医療」
- ・重症心身障害児医療の紹介「脳性麻痺と治療」
- ・重症心身障害児医療における外科疾患
- ・NHOにおける重症心身障害児医療の立ち位置



講義～重症心身医療の紹介～